

沖縄ベンチャースタジオ

<http://ovs.jp>

10号

2007.WINTER

発行：(財)沖縄県産業振興公社
〒901-0152 沖縄県那覇市小禄1831-1
TEL 098-859-6237
<http://www.okinawa-ric.jp>



沖縄を語る 安良城 紅さん
インタビュー

いろいろなところに住んだけれど、沖縄が一番。
沖縄はずっと元気でいてほしい。

P5

特集

新春スペシャルインタビュー

沖縄県民は、みな 社長を目指そう！

—仲井眞弘多・沖縄県知事、かく語りき—

P2

Line up

- 【特集】沖縄県民はみな、社長を目指そう 仲井眞弘多県知事インタビュー p2
- 【仕事創造人】米軍基地との取引きなどをサポート（有）アンテナ石原地江社長 p4
- 【表紙クリアインタビュー】沖縄はずっと元気でいてほしい／安良城紅さん p5
- 【レポート】人材育成研修に参加して／（有）勝山シークワーサー 安村盛一さん p6
- 【トピックス】沖縄ビジネス大賞受賞企業決まる！ p7
- 【企業訪問】（株）沖縄トータルサービス、（株）あざみ屋、（株）アイディーズ p8
- 【情報】OVSニュース p10

撮影：篠原宏明



QRコードから、公社の携帯用HPの情報を入手できます。

外国語に堪能なスタッフをそろえ、米軍基地との取引きやコンベンション

ベンションなどをサポート。
有限会社アンテナ 代表取締役社長 石原地江

昨年10月、(財)沖縄県産業振興公社の事業可能性評価委員会事業に、有限会社アンチナの「翻訳システムを兼ね備えたビジネスマッチングサイト(エーサップ)」が選定されました。

エーサップ」という言葉は、「できるだけ早く」を表す英語(As Soon As Possible)を思い浮かべるのですが、どのような事業ですか。

力した英文による発注を登録会員に日本語で伝え、会員は、日本語で見積もりを提示できるビジネスマッチングの仕組みです。英語と日本語の翻訳は当社が行います。政府調達クリエイツカードを保有している調達担当者は1千名以上いて、點沖米軍にとっても事務の効率化につながること、また、地元から購入した方が安心・確実であるという利点から駐沖米軍の契約事務所の全面的協力を得て提供しているサービスです。

りたい。当社だけで全てができるわけではありませんが、いろいろな小さな会社との連携を進め上げでホスピタリティを持ったコーディネートができないことを自指し起業しました。創業は9年前。最初は具志堅アメリア、二人で、半年後に桃原マリーさんが加わりて三人になりました。会社のキャッチコピーは「Yes, We Can Can Can」（私たちもできる）でした。最初の頃は、とんでも仕事がなくて婚姻証明書の翻訳など、たまにある程度でした。コンベンション・

当面 ことだ 満足が 関わつ 側利用 こと。
手回り います してゆ 当社 で、も

は、今や
と考えて
行くこと
ているス
者のビジ
どれかが
漕ぎ出し
ます。

かりしたケアをできる。エーサップに、タッフ、利用者たが、欠けてもダメ。た状態で、前薦めようになれば成

関しては、成功させることは、
「駐沖米軍」
現在は、自
と後輪が上
功と考えて
も順次強化

社員にいっても書いてしているのは、常に成長することもあること。良いことも悪いことも何か意味があるもので、シグナルとして捉えて、何を知らせててくれるのか、という風に考え、そこから成長すること。お客様の声を良く聞き、失敗しても、そこから考える最も良いの解決策を自分で考え具体的に行動し、仕事を通して学んでいくってほしいと願っています。そのような行動の中で社員も会社も発展していくと思っています。

いました。

コンベンションの候補地は世界中にたくさんあります。何故沖縄を選ぶのか、交通の便も沖縄が特別有利な状況にはないと思います。沖縄が競争できるものは何かを考えています。
（こじま、西原、吉野、ソフト）

起業

してから随分
ました。うま
る人が現れた
、手伝つてく
感謝していま

とお客様、社員に恵ま
ない具合にその国の言葉
より、指導・助言してく
れる人が現れたりで、
す。

たい。空港利用の仕方、バスの乗り方など、沖縄に入ってくる外国人がスムーズに会場まで来ることができるようになるのがコンベンション・オーガナイザーだと思っていきます。旅慣れていない人にとっても、言葉問題



海軍の認証する安全管理責任者(NAV F A C)の証書。この資格を有するスタッフが2人いるので、今後NAV F A Cを得るためのセミナーなども行いたいという

——御社は、語学ができ、イベント運営交渉ができる会社という説明でしたが、事業と起業の経験について教えてください。

当社は、コンベンションの運営、翻訳を行なう会社です。社員の他に多くの通訳、翻訳を扱つてれるフリーランスの方々との協力を得ています。英語、スペイン語、中国語、韓国語、イタリア語、ポルトガル語、フランス語、タイ語、ロシア語等に対応できます。九州、沖縄サミットや世界ウチナーンチュ大会のお手伝いもしました。

漠然とコンベンションの会社をやりたい

した。これかきつかけで、翻訳校正、外國語によるキャッチコピーの相談などの仕事が増えてきました。コンベンション関係の仕事ではありませんでしたが、広告代理店の方々には「君たちこれもできるが、あれもできるのか」といろいろな面を引き出しありました。それで、今の翻訳・通訳の仕事の基礎にならなければなりません。

それでもビジネスとしては厳しい状態が続いていましたが、3年目になって制作会社から、「アジア・ペトレングル上陸競技会」の各国から来沖する語学ボランティアを統

—— ありがとうございました。
インタビュー／
中小企業支援センター・
サブマネージャー 桑田敏夫

石原地江(いしはらくにえ)さん

昭和42年生まれ。世界冒険旅行を想像しながら地図勉強るのが子供の趣味。県立那覇高校卒業後、テンプル大学イタリア校とフィラデルフィア校で人文人類学を専攻。卒業後、帰郷し、潮干狩り・ビンゴ・シーサンク・旅行代理店・翻訳・翻訳会社の営業等で経験。平成9年に、国際会議・イベントのコーディネートや翻訳・通訳を通して外国語のコミュニケーションの総合サービス有限会社「アンテナ」を設立。

【有限会社アンテナ】
〒900-0013 沖縄那覇市牧志2-16-5(2F)
TEL:098-860-5218 FAX:098-860-5219
<http://www.antenna-okinawa.co.jp>

私が簡単に思はるが、難しいのです。なぜか
という思いがあつて、周りから離脱分と心配
されながらも想いだけで起業しました。私
たちが思うコンベンションの会社とは何か
時は、人が介在したミーティング、見本市、
イベントなどを支えてゆく仕事を、地元を
良く知り、地元をキチンとサポートできる
ようなキーマンの会社。このようなキーマ
ンがいることでコンベンションが増えて仕
事も増えると思いました。沖縄県さくら、地元
の力で運営をサポートする会社を目指して

それでもビジネスとしては厳しい状態が続いていましたが、3年目になって制作会社から、「アジア・ペデランツ大陸上競技会」の各国から来沖する語学ボランティアを統括する監督の仕事がもらえました。会社は外に出で、言葉が分かるだけではダメだという事が理解でき、「私たちには何ができるのか」を見つめなおして、人も内容も20%の仕事をするようにチャレンジしたことで周囲にも私たち自身が目指していたものが何かを理解してもらえるようになってしまった。このだと思思います。これが筋目になって、県や市町村からも声が掛かるようになり、アンテナも実施会社の一つとして紹介されるようになりました。

サイドテーブル
● ● ●

べーー!」「夢
などと言う
人がいる
エネルギー
になるからで
れを体験さ
かから始めた
自分で見てい
は目で見てい
内定する人に
話を受け入れ

た。夢を膨らませ、「沖縄」を軸足にした。
そのことがやがて信用を得ることに繋がり、お客様の紹介で仕事が増えていった。そして今、「新しいパートナー」と新しい仕事がスタートした。

企業の成長過程において、創業者の思いに勝る経営資源はないと思う。石原社長の思いと共にアーチャーが成長することを願い、応援のメッセージを贈りたい。「沖縄とともに成長しよう!」